

ろく たん だ みなみ いせき
六反田南遺跡Ⅴ 現地説明会 資料

平成22年10月2日(土)
 国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所
 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
 (株)吉田建設

遺跡の概要

六反田南遺跡は、日本海の海岸線まで直線にして250mと海に近く、海川下流右岸の沖積地に立地しています。

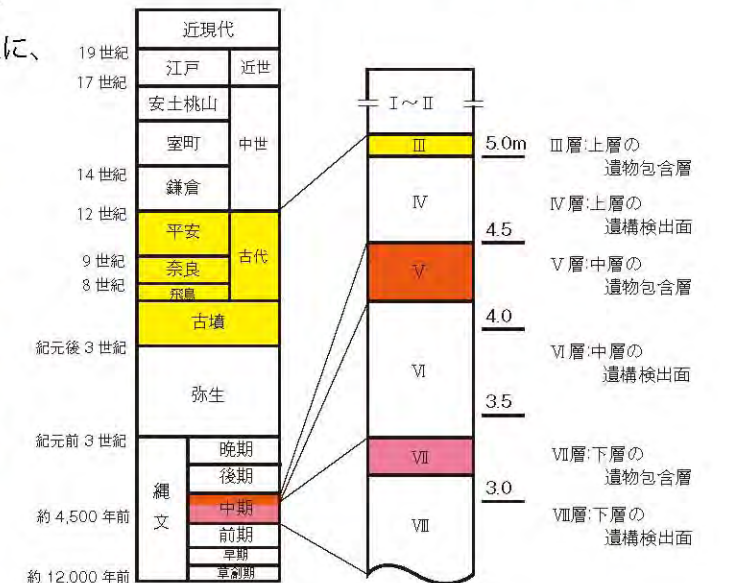
発掘調査は、北陸新幹線、一般国道8号糸魚川東バイパス建設に先立ち平成18年から継続して行っており、今年が5年目にあたります。

これまでの調査で、縄文時代中期、古墳時代(前・中・後期)、奈良・平安時代に断続的に営まれた遺跡で、特に標高3~4mから縄文時代中期の石囲炉を持つ竪穴住居や土器、石器などの捨て場が見つかり、県内の縄文中期としては珍しい、低地集落であることが明らかになりました。また、古墳時代の玉作関連の遺物が多く出土しました。

北陸新幹線の発掘調査は既に終了し、現在は糸魚川東バイパス法線内のみを調査しています。本年度は4調査区(A1区・AP1区・KE1区・KD3区)を対象に、5,200㎡を調査しています。

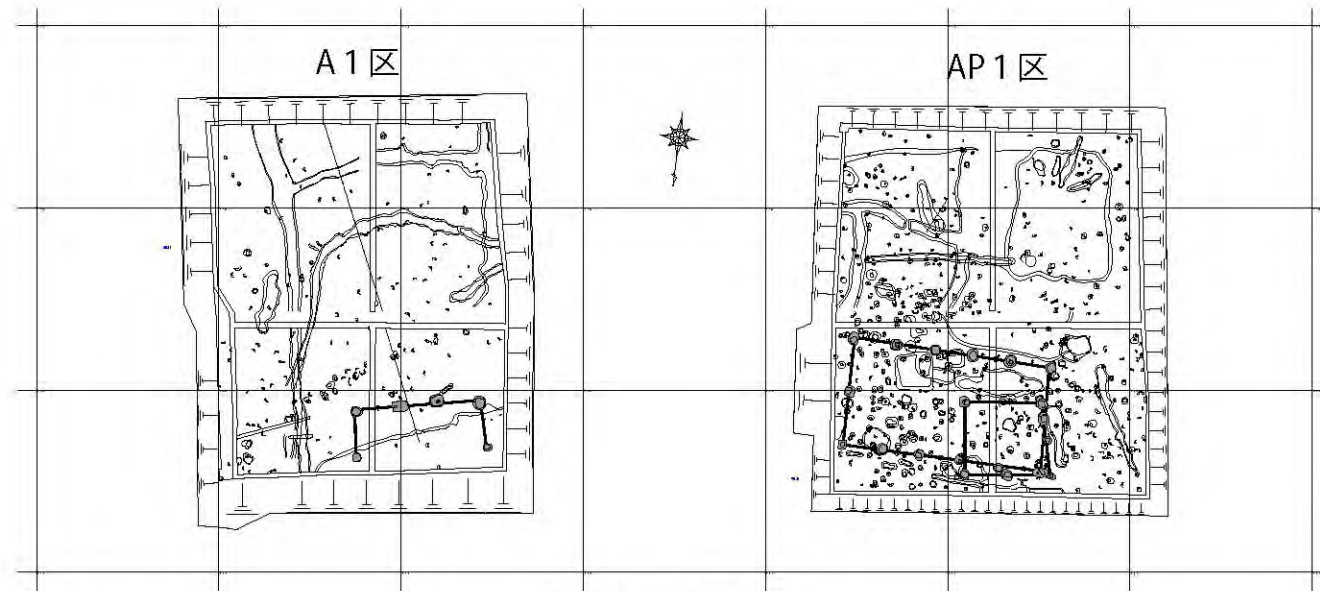


六反田南遺跡とその周辺の主な遺跡位置図



六反田南遺跡調査区全景(西から)

基本土層模式図と歴年代比較表



A1区・AP1区上層平面図

3 KE1区の調査

上層 (古墳時代前期)

KE1区では古墳時代前期の掘立柱建物・平地建物・溝・土坑・板杭・川跡を検出しました。

掘立柱建物の長軸は東西方向を向き、規模は桁行2間(6m)、梁行1間(3.6m)で、その柱穴は長軸60~80cm、短軸40~70cm、深さ40~60cmを測ります。

平地建物は一辺が約4mの長方形プランの溝を検出しました。遺存状況は良好ではありませんが、これと同様のものをもう1軒検出しています。

川跡は、幅1.8m、深さ30~40cmで、調査区を西から東へ蛇行します。ここからは、古墳時代前期の甕・壺・高杯・器台などが出土しました。

この川跡は、北側の調査区(平成18年度調査)、南側の調査区(平成19年度調査)、東側の調査区(平成20年度調査)で検出された川跡につながるものです。

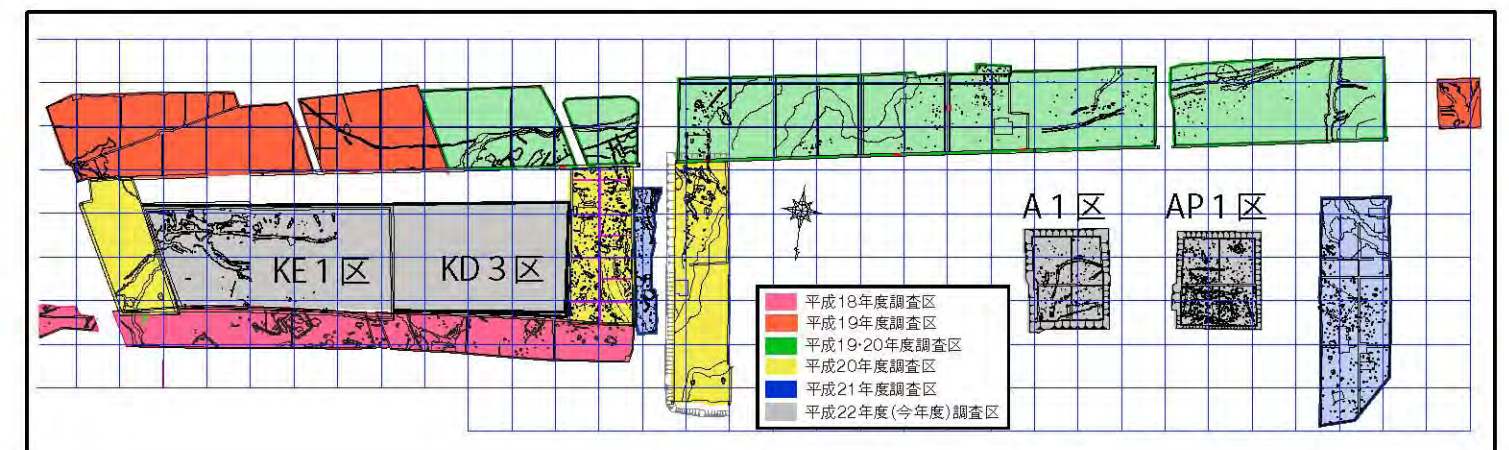
これまでの調査結果をまとめると、掘立柱建物や平地建物・土坑・ピットは、いずれもこの川跡の北側に多く分布し、南側では自然の窪地が多く見られることから、北側(海側)に集落を形成していたものと考えられます。



KE1区 古墳時代の平地建物



KE1区 川跡遺物出土状況



調査区配置図